



The Strategic Pivot:

日本経済の構造転換と再成長

失われた30年からの脱却、国家主導による「攻め」への大転換

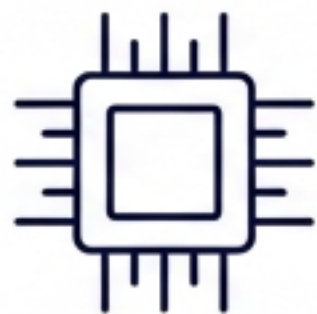
エグゼクティブ・サマリー：守りから攻めへ

高市政権下の日本は、リスクを取り、技術と安全保障を統合した新しい成長モデルを構築中である。



Macro

デフレ脱却と
「責任ある積極財政」
への転換



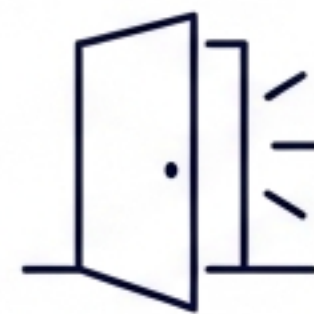
Tech

半導体・AIへの
45兆円規模の
官民投資



Security

地政学リスクを
技術力で抑止する
「経済安全保障」



Structure

労働市場と金融の
「開国」と構造改革

国家主導の成長モデル：「強い経済」へのパラダイムシフト

CONTEXT（現状）

バブル崩壊後の民間任せの産業育成を見直し、政府が司令塔となる。

「責任ある積極財政」

コスト削減経営からの脱却と、投資による生産性向上。

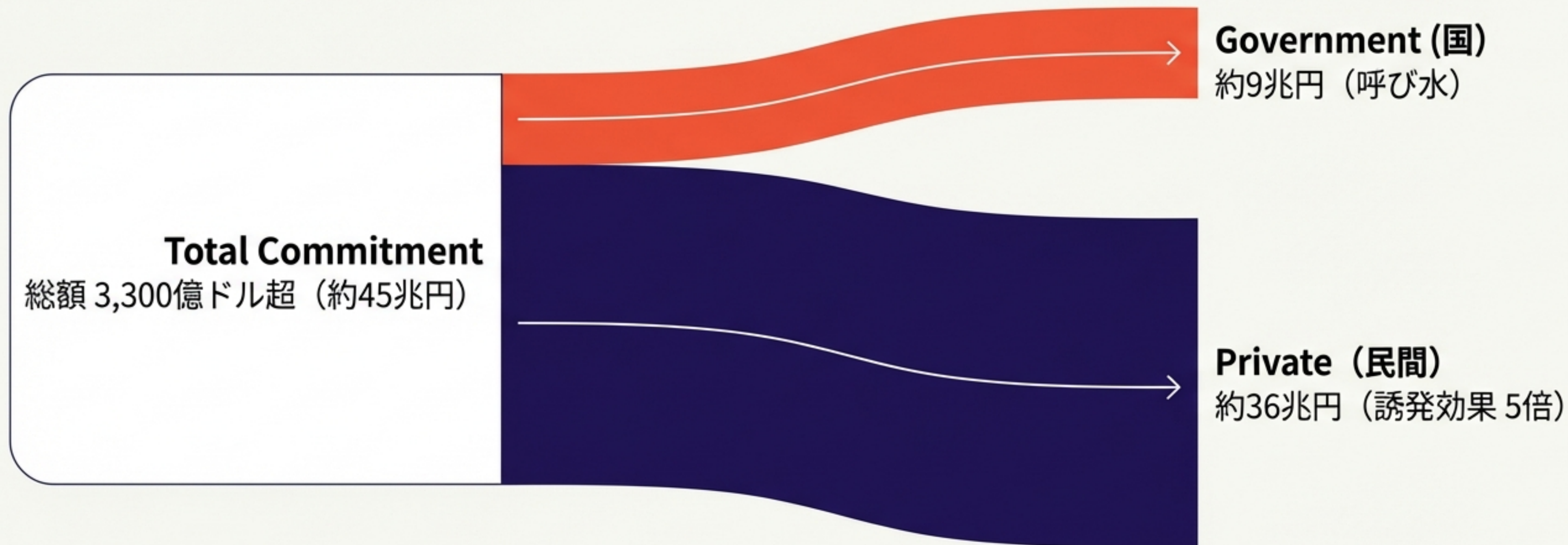
STRATEGY（戦略）

17の戦略分野（AI、半導体、サイバー、宇宙など）を指定し、重点投資。

2025年11月新設の「成長戦略本部」が官民投資計画を策定。

名目GDP 4兆ドル超、賃金上昇定着という「追い風」を構造的な成長へ変える。

成長のエンジン：シリコンと知能への45兆円投資



Insight: 予見可能な長期支援により、国内製造能力の強化と海外依存の低減を図る。これは単なる景気刺激策ではなく、次世代サプライチェーンの中核を担うための構造的投資である。

具体化するプロジェクト：RapidusとAIインフラ



Rapidus (Hokkaido)

2nm世代半導体の国産化（2027年量産目標）。
政府支援 9,200億円 / 米IBM技術協力。

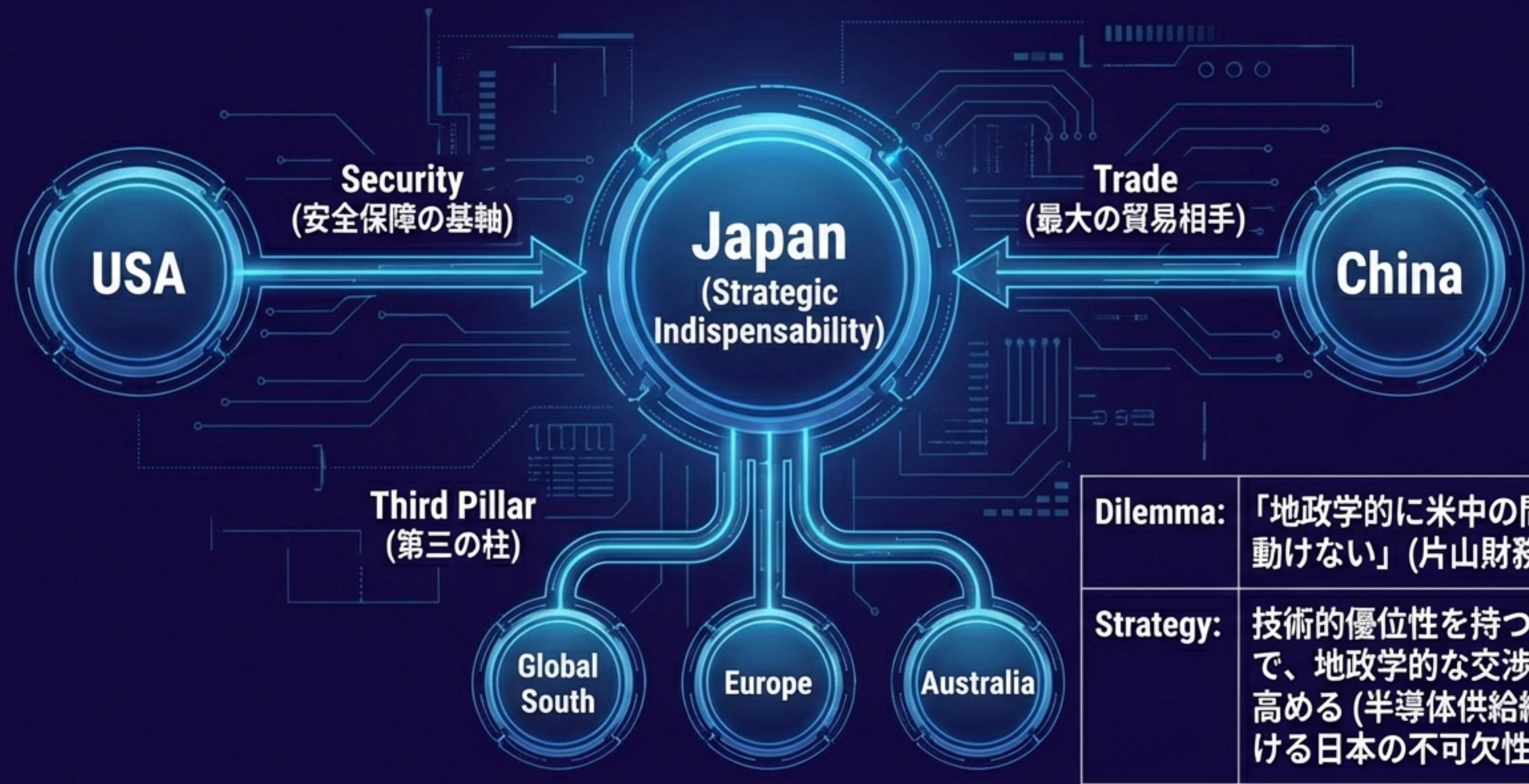
AI Infrastructure

ソフトバンク・さくらインターネットによるDC整備。
経産省AIスパコン補助（725億円）。

Strategic Goal

「世界一AIに優しい国」を標榜し、著作物学習の合法化など法整備面でもバックアップ。

地政学的リアリズム：米中の狭間での戦略



防衛とテクノロジーの融合：新たな抑止力

2% of GDP
(2027年度目標)



Stand-off Missiles: トマホーク
導入、国産12式能力向上。



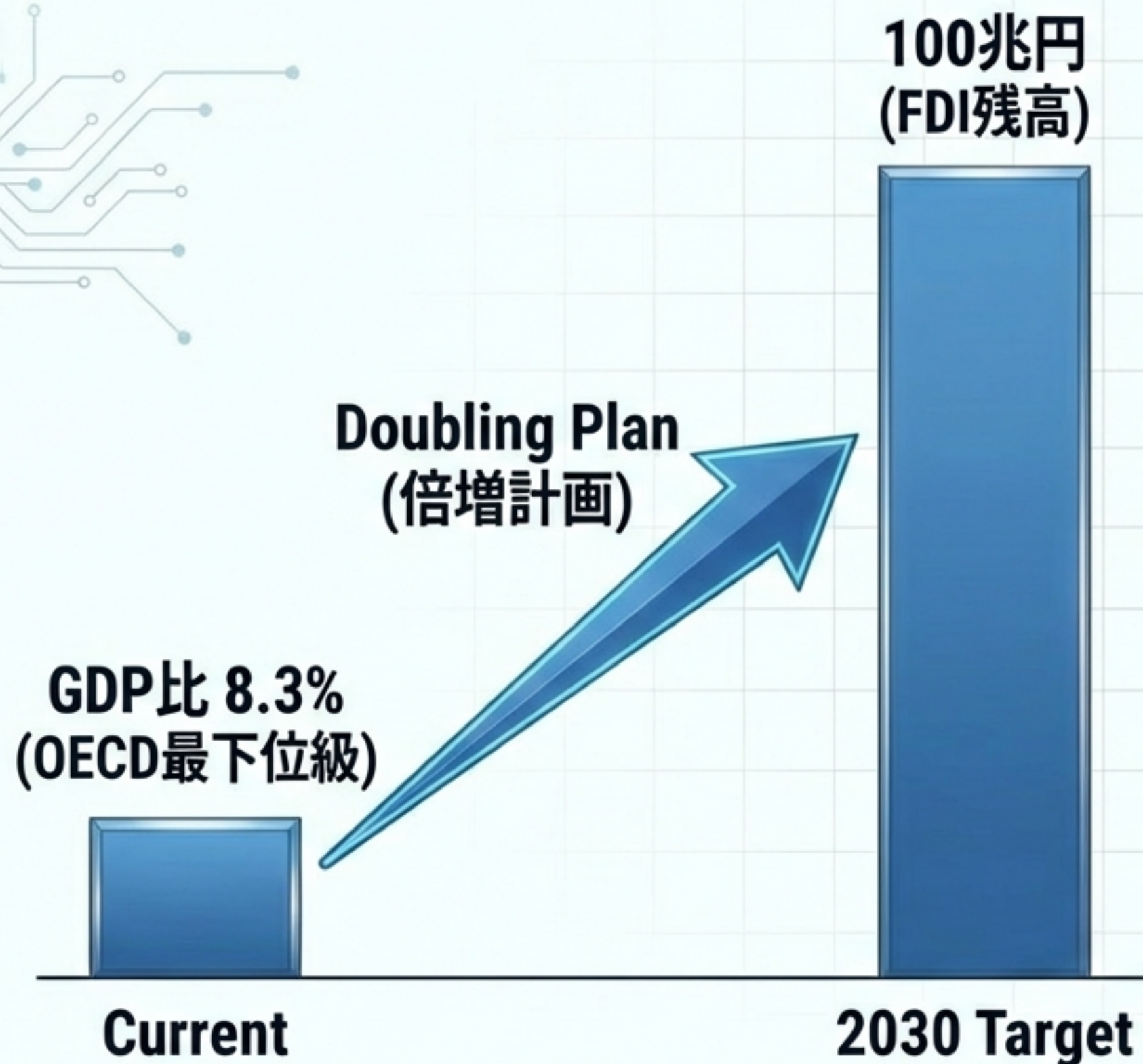
New Domains: 宇宙・サイバー・
電磁波への約5,000億円投資。



Unmanned Systems: ドローン・
無人機による人的リスク低減。

Insight: 経済と安全保障の一体化。民間インフラ（海底ケーブル、AI）も
「国家防衛の一部」として位置付けられる。

市場開放：「閉鎖性」からの脱却と100兆円への道



Breaking Barriers:

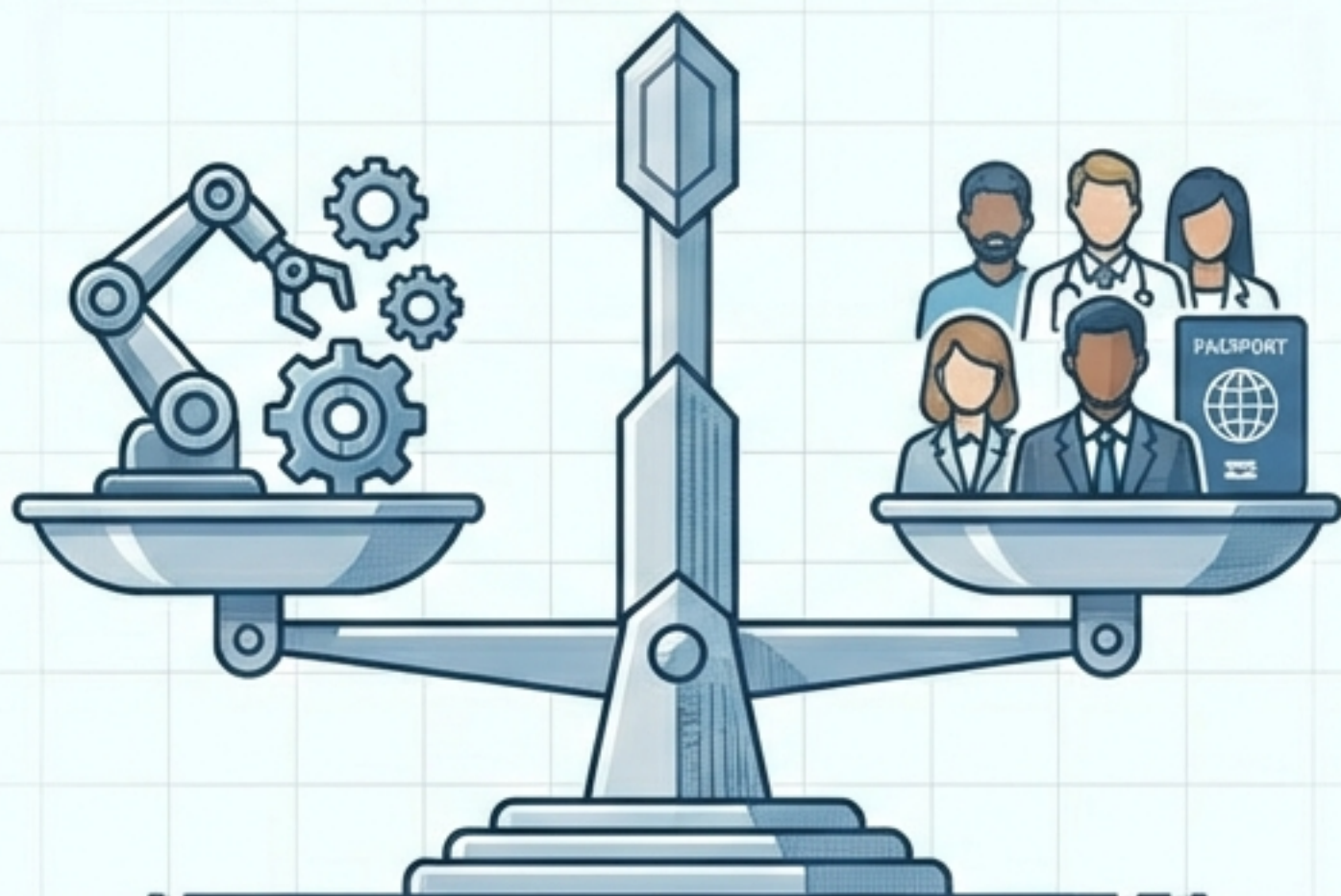
- 独自の規制（例：国際共同治験の壁）
- アナログな商習慣（現金主義、電子契約の遅れ）
- 言語・文化の壁

Opportunity:

ガバナンス改革（PBR1倍割れ是正）により、海外投資家の日本株評価は改善傾向。

労働市場のリアリズム：移民政策ではない「開国」

**Robotics/AI
(省力化)**



**Foreign Talent
(特定技能)**

Context:

2022年の自然減は約80万人。労働力不足は経済のボトルネック。

The Hybrid Strategy:

1. 省力化技術のフル活用
2. 「特定技能」制度の拡大（家族帯同、永住への道）

Reality:

「移民政策はとらない」としつつ、外国人労働者は過去最多の約182万人に到達。

データ検証：急増する外国人人口



Text Sidebar

- **Trend:** 2024年には約380万人に到達し過去最多。増加ペースが加速している。
- **Insight:** 全人口に占める割合は3%強とまだ低い（OECD平均15%）、労働市場における存在感は急激に高まっている。
- **Future:** 「緩やかな増加」が続く見通し。

女性活躍：量から質への転換点

72%

女性就業率（G7最高水準）

Success: M字カーブは解消傾向。

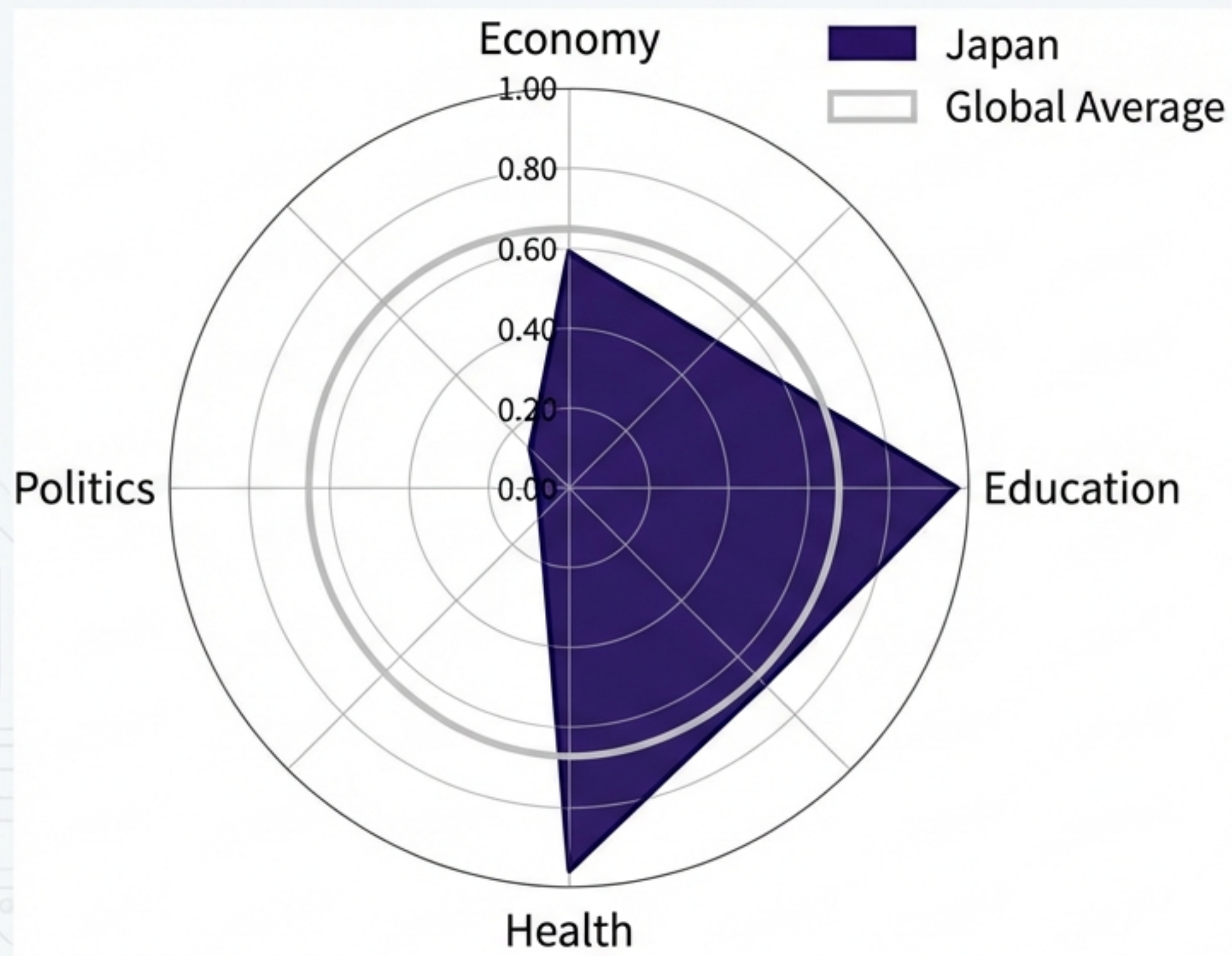
15.5%

管理職比率（目標30%未達）

Failure: 男女賃金格差は22.1%
（OECDワーストクラス）。

Policy Direction: 男女賃金差の開示義務化、男性育休の推進。女性の経済参加はGDPを10%以上押し上げるポテンシャルを持つ。

データ検証：ジェンダーギャップの構造的歪み



Analysis:

- Education/Health: 世界平均と同等以上の高水準。
- Economy/Politics: 世界平均を大きく下回る（146力国中125位）。
- Implication: 能力ある女性（高教育）を経済・政治の意思決定に活かしていない「資源の浪費」状態。

金融インフラの革新：規制を武器にしたデジタル金融立国



- The Pivot: 現金大国から、世界最先端の規制国家へ。
- Key Regulation: 2022年成立のステーブルコイン法。世界に先駆けて法的定義と発行者（銀行等）を明確化。
- Innovation: メガバンク（三菱UFJなど）による円建てステーブルコイン発行計画。
- Vision: 「安心できるWeb3ハブ」。米欧が規制に揺れる中、日本発のルールがグローバルスタンダードになる可能性。

リスク分析：財政規律と実行の壁



- The Fiscal Risk: 金利上昇局面での利払い負担増。
- The Strategic Bet: 「成長による税収増で債務依存度を下げる」。(直近の国債依存度は低下傾向)
- Execution Risks:
 1. Rapidusなど巨大プロジェクトの技術的・商業的成功は不確実。
 2. 人材不足 (AI・半導体エンジニア) がボトルネックになる恐れ。

結論：課題先進国から「解決策」先進国へ

Summary: 日本の変化は本物である。デフレマインドを払拭し、官民連携による大規模投資と構造改革が動き出した。

The Outlook:

- Success Scenario: 技術と人口減少が共存する新しい成長モデルを世界に示す。
- Requirement: 継続的な政治コミットメントと、規制の「実行」速度。

日本は今、失われた30年を取り戻す「実行フェーズ」にある。